

平成21年

第6回 ハンディのある子どもたちのためのサポーター養成講座

日時 平成22年1月24日(日) 9:00~12:00
場所 島根県立松江清心養護学校 会議室

8:50	受付

	諸連絡
9:05	講義1 「公民館と地区社会福祉協議会」 松江社会福祉協議会 地域福祉係長 雨川 益男
9:55	休憩
10:00	研修 「これからのサポーター活動について～保護者の願い～」 松江養護学校保護者 4名 松江清心養護学校保護者 2名
11:00	休憩
11:10	閉講式 校長あいさつ 松江清心養護学校校長 児山 志津子
11:20	諸連絡 ・実技6について ・その他
12:00	アンケート記入

	終了

<当日の様子>

1月24日、第6回目のサポーター養成講座が島根県立松江清心養護学校を会場に開催されました。今回は受講生16名の参加でした。

講義では、「公民館と地区社会福祉協議会」について話があり、公民館と地区社会福祉協議会とのかわりや、私たちの生活にどのように関係しているのかについて、改めて知る機会になりました。また、あったかスクラム事業についての紹介もあり、終了後の活動についても考える機会となりました。

研修では、受講生、保護者、教員を交えて5つのグループに分かれての座談会を行いました。まず、保護者の方から、それぞれの地区の現状や、課題、思いなどについて話していただきました。地域のサポーターが増えていくことだけでなく、理解してくれる人が増えていくことを願っておられるということを改めて知りました。お互いに無理のないところで、助け合っていくことが大事だと感じました。

講義は今回が最終回でしたが、実技6として、2月20日に松江養護学校で鳥取キタロウズとの交流野球教室が行われます。



講義1 「公民館と地区社会福祉協議会」



研修 「これからのサポーター活動について」



閉講式

<受講生アンケートより>

～講義1について～

- 公民館と地区社協のかかわりを再認識した。
- 公民館との連携ある活動が、今後、ますます求められていくのではないかと感じた。地区によっての実態や課題が様々で、差が出てくるとは思うが、よいことは広がっていくとよい。
- 修了生をどのように地域に活かしていくのかが、課題だと思う。

～研修について～

- 保護者の方のお話に、心打たれるものがあった。
- ボランティアをした後、倍になってかえってくるものがあり、感激している。元気になったり、笑顔になれたりすることができ、感謝している。
- 障害のある子どもさんを毎日24時間支えておられる、保護者の方のご苦勞は大変なものだと感じた。保護者の方の負担軽減のためにも、このようなボランティアを増やして、障害のある方を社会全体で支える仕組みづくりが大切だと思う。

～全体を通して～

- 6月より、ほどよいペースで講義を受けることができ、とても新鮮で新しい知識を得ることができた。
- 講義、実技を通して、子どもたち、保護者さんとかかわることができ、ますます地域で見守り、育てていかなければと思った。自分にできることから始めたい。
- ほとんど何も知らないところからの受講だったので、講座で障害の内容について知識を深めたり、実習で障害のある子どもさんと接する経験をしたりすることで、自分なりにいろいろなことを知ることができた。